

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第34週に1,159件の報告がありました。10万人当たりの1週間新規感染者数は高い水準で推移しており、感染状況はステージIVと厳しい状況が続いています。広島県は、医療の体制が危機的状況になるとみて、国に対して「緊急事態宣言」を要請し、8月27日から9月12日までの期間で適用されました。

デルタ株は感染力が強く、これまで以上に接触機会を下げないと、まん延が止まらない恐れがあります。基本的な感染防止対策や人出の削減に努め、体調に異変があるときはすぐに受診するなど、一人一人が感染防止対策を徹底しましょう。

緊急事態宣言発令 ～県民・事業者の皆様への要請～

県民/事業者の皆様への要請

昼間の人出削減

- 生活に必要な買い物などを含めて **全県で外出を半減** (通院, 通勤, 通学を除く)
- テレワークや休暇取得などで職場への **出勤者7割減** を目標として実施

県民/事業者の皆様への要請

夜間の人出の更なる削減

- 全県で**
⇒ 酒類・カラオケ提供店の原則休業とそれ以外の飲食店の20時までの時短要請
⇒ 20時以降の外出は削減
⇒ 事業継続に必要な場合を除き **20時以降の勤務抑制**
- 要請に応じていない店舗の利用はしない、路上飲みはしない

県民/事業者の皆様への要請

- 県外に行かない・呼ばない
※どうしても、の場合は出発前到着地で検査を (通院, 通勤, 通学を除く)
- 体調に異変があるときは、すぐに受診を無症状でも、PCRセンターで受検を

【参考】広島県へ緊急事態宣言が発令【R3.8.25会見】(広島県)
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/2019-ncov/20210825.html>

2 ヘルパンギーナ

定点当たり0.83人と増加しています。手洗いの励行や排泄物の適切な処理など、感染予防を心がけましょう。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	1	0.03	0.02		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.10	
小児科	咽頭結膜熱	3	0.13	0.33		眼科	RSウイルス感染症	46	1.92	1.22	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	0.50	1.19			急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	43	1.79	3.67		基幹	流行性角結膜炎	3	0.38	0.75	
	水痘	1	0.04	0.45			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	6	0.25	1.29			無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	伝染性紅斑	-	-	0.31			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	
	突発性発しん	5	0.21	0.41			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	20	0.83	0.54			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	56	90歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	14	10歳未満・O26・2人
5	梅毒	4	45	20歳代・3人、30歳代・1人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	週次	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス) 感染性胃腸炎	
		広島市	第30週	-	2	3	52	1	2	-	12	5	-	140	-	1	-	-	-	-
	第31週	-	6	12	42	4	1	-	7	2	-	188	-	1	-	-	-	-	-	-
	第32週	-	1	3	32	-	1	-	6	-	-	90	-	-	-	-	-	-	-	-
	第33週	-	1	12	37	2	3	-	5	4	-	40	-	3	-	-	-	-	-	-
	第34週	1	3	12	43	1	6	-	5	20	1	46	-	3	-	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市		0.08	0.13	2.17	0.04	0.08	-	0.50	0.21	-	5.83	-	0.13	-	-	-	-	-	-
	第31週		0.25	0.50	1.75	0.17	0.04	-	0.29	0.08	-	7.83	-	0.13	-	-	-	-	-	-
	第32週		0.04	0.13	1.39	-	0.04	-	0.26	-	-	3.91	-	-	-	-	-	-	-	-
	第33週		0.04	0.50	1.54	0.08	0.13	-	0.21	0.17	-	1.67	-	0.38	-	-	-	-	-	-
	第34週	0.03	0.13	0.50	1.79	0.04	0.25	-	0.21	0.83	0.04	1.92	-	0.38	-	-	-	-	-	-
	全国		0.13	0.30	1.48	0.07	0.20	0.01	0.23	0.20	0.05	2.46	-	0.14	0.01	0.02	0.03	-	-	-
	第33週		0.15	0.33	1.93	0.08	0.29	0.01	0.32	0.25	0.06	2.00	0.01	0.24	0.01	0.02	0.04	-	-	-

■ 広島市における新型コロナウイルス感染症の発生状況(確定日で集計)

【第34週(8月23日～8月29日)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
86	159	314	214	188	118	49	19	12	-	1,159

【累計報告数(8月29日)現在】※2020年からの累計報告数です。

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
482	947	2,736	1,713	1,732	1,400	872	671	495	67	11,115

「風邪かな?」と感じたら、かかりつけ医や
コールセンター(積極ガードダイヤル)TEL:082-241-4566 に連絡・相談しましょう。

* 新型コロナウイルス感染症に関する最新の発生状況、相談窓口等については、広島市ホームページ
「新型コロナウイルス感染症に関する情報(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/>)」からご確認ください。

【参考】正しく使おうマスク!

●マスクの素材は、一般的なマスクでは、

- ①不織布マスク
- ②布マスク
- ③ウレタンマスク

の順に効果があります。

●マスクの着用は、**ウイルス吸入量を減少させる効果**より、**ウイルス拡散を防ぐ効果**がより高くなります。

●自分と相手の双方が不織布マスクを着用することで、ウイルスの吸い込みを**75%減少**させる研究結果があります。

全国的に拡大しているデルタ株は、1人の感染者から8人に感染が広がると言われるほど感染力が増えています。より効果の高い不織布マスクを正しく着用して、感染を予防しましょう。

マスクの正しいつけ方



- ①鼻の形に合わせすき間をふさぐ
- ②あご下まで伸ばし顔にすき間なくフィットさせる

【参考】

2021版感染拡大防止へのご協力をお願いします(首相官邸ほか)
https://corona.go.jp/proposal/pdf/kansenboushi_green_20210702.pdf

新型コロナウイルスに関するQ&A(一般の方向け)(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/den_gue_fever_qa_00001.html#Q4-1

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp